「水素を燃料とする荷役機械の導入促進に向けた検討会」について

令和6年11月

国土交通省港湾局産業港湾課

1. 設置目的

サプライチェーンの脱炭素化に取り組む荷主や船社から選ばれる競争力のある港湾を形成するため、世界のコンテナターミナルでは、荷役機械の脱炭素化が進められている。

日本の港湾で低炭素型荷役機械の導入等が進んできているが、今後の脱炭素化の手段の一つとして水素燃料化が考えられる。現に、国内外の一部の港湾において、水素を燃料とする荷役機械（RTG）の実証事業が開始している。

このような背景の下、これらの実証事業の成果を活かし、港湾のターミナルにおける水素を燃料とする荷役機械の安全かつ円滑な導入や普及に向け、港運事業者、ターミナル事業者などが活用できるガイドラインの作成等を目的に、有識者、実証事業実施主体、港湾管理者等で構成する「水素を燃料とする荷役機械の導入促進に向けた検討会」を設置する。

2. スケジュールと検討事項

令和6年度内に3回程度開催予定。令和7年度にかけて実施される各港の実証結果等を踏まえ、令和7～8年度も継続開催し、ガイドラインの作成、港湾の施設の技術上の基準の改訂検討を行う予定。

○第1回（11月20日（水））

- ・水素を燃料とする荷役機械に係る動向
- ・各港の現地実証に係る情報共有 等

○第2回（12月頃）

- ・導入に向けた課題整理 等

○第3回（令和7年2月頃）

- ・課題への対応案
- ・ガイドラインの構成案
- ・港湾の施設の技術上の基準の改訂検討項目の抽出 等

3. その他

○本検討会は、参加者の自由な議論を担保する観点から、一般からの会議の傍聴は行わないこととする。

○配付資料及び議事要旨は原則公開とする。ただし、個別の事情に応じて、本検討会が特に必要と認めるときは、配付資料の一部を非公開とすることができる。